

COGNEX

VisionView

オペレータインタフェースパネル

ユーザマニュアル

本書で説明しているソフトウェアは、ライセンスのもとで作成されており、本ページに記されている著作権を明記したライセンスに基づいた許可なしに、使用したり複製したりすることはできません。ライセンスの保持者以外にソフトウェア、本書、あるいはそれらのコピーを提供することはできません。本ソフトウェアの使用権と所有権は Cognex Corporation あるいはそのライセンス保持者にあります。Cognex Corporation は、同社が提供していない装置における同社製ソフトウェアの使用または信頼性についていかなる責任も負いません。Cognex Corporation は、本書で記述されているソフトウェアの内容、商品価値、非侵害、または特定の使用目的に対する責任に関して、明示または黙示にかかわらずいかなる保証も行いません。

本書の内容は、予告なしに変更することがあります。内容の変更について、Cognex Corporation はいかなる責任も負いません。本書あるいは関連ソフトウェアにおける誤りについて、Cognex Corporation はいかなる責任も負いません。

本書で例として使用されている企業、氏名およびデータは、特に断りがない限り架空のものです。本書のいかなる部分も、Cognex Corporation の書面による許可なく複製すること、手段や形態、その目的を問わず、電子的または機械的に転載すること、他のメディアに送信すること、および他の言語に翻訳することを禁じます。

Cognex P/N 597-0108-03JA

Copyright © 2008 Cognex Corporation. All Rights Reserved.

Cognex の提供するハードウェアおよびソフトウェアの一部は、下記に示す米国およびその他の国の特許、さらに米国およびその他の国の申請中特許で保護されています。本書の出版以降に申請された米国および他国の特許は、Cognex のウェブサイト <http://www.cognex.com/patents> に記載されています。

5481712, 5742037, 5751853, 5845007, 5909504, 5943441, 5949905, 5960125, 5978080, 5978081, 6005978, 6137893, 6141033, 6154567, 6215915, 6236769, 6282328, 6301396, 6327393, 6381375, 6408109, 6457032, 6490600, 6563324, 6658145, 6690842, 6771808, 6804416, 6836567, 6850646, 6856698, 6859907, 6920241, 6941026, 6959112, 6963338, 6975764, 6985625, 6993192, 7006712, 7016539, 7043081, 7058225, 7065262, 7069499, 7088862, 7107519, 7164796, 7175090, 7181066, 7251366, JP 3927239

Cognex、In-Sight、および DVT は Cognex Corporation の登録商標です。

VisionView、Cognex ロゴ、SmartLink、EdgeCount、FeatureCount、および ObjectLocate は Cognex Corporation の商標です。

Windows は米国およびその他の国の Microsoft Corporation の登録商標または商標です。本書に記載されている、その他の製品および企業商標は、各社の商標です。

適合宣言書	
製造者	Cognex Corporation One Vision Drive Natick, MA 01760 USA
 マークの付与されたマシンビジョンシステム製品を以下の通り宣言します。	
製品タイプ	821-0004-1R
準拠	2004/108/EC 電磁両立性指令
適合規格	EN 55022:2006 クラス A EN 61000-6-2:2005
EU 域内代理人	COGNEX INTERNATIONAL Immeuble "Le Patio" 104 Avenue Albert 1er 92563 Rueil Malmaison Cedex - France
安全規制	
FCC	FCC（アメリカ連邦通信委員会）規則 第 15 章 クラス A 準拠 本装置は FCC 規則第 15 章に準拠しており、次の 2 つの条件を前提として動作します。（1）本装置が有害な干渉を起こさないこと。（2）本装置が干渉（誤動作を引き起こす恐れのある干渉を含む）を受けても耐えること。 本装置は高周波を発生・使用・放射することがあります。取扱説明書の指示にしたがわずに設置・使用した場合、無線通信に有害な干渉を与える可能性があります。本装置を住宅地で使用すると有害な電波障害を起こす恐れがあり、この場合、使用者の負担で障害を是正する必要があります。
NRTL	TUV SUD AM SCC/NRTL OSHA Scheme for UL/CAN 60950-1
CB	TUV SUD AM, IEC/EN 60950-1。請求により、CB 報告を提供します。
RoHS	RoHS 6 準拠
規制および適合宣言に関する最新情報については、Cognex オンラインサポートセンターにアクセスしてください。 http://www.cognex.com/ckksupport/common/welcome.asp	

人体への障害や機器の損傷を防ぐために、VisionView をインストールする際には次の注意事項を厳守してください。

- ・ VisionView は、UL 規格に準拠した最低定格出力 24VDC、短絡定格電流最大 8A 以下、電力定格最大 100 VA 以下の 2 A、クラス 2 または LPS (Limited Power Source) による電源供給を必要とします。他の電源を使用すると、火災や感電の危険性が生じ、ハードウェアに損傷を与える原因となります。
- ・ 過電圧、回線ノイズ、静電気放電 (ESD)、電力サージ、そのほかの電源異常に起因した損傷や誤作動を防止するために、ケーブルとワイヤはすべて高電圧電源を避けて配線してください。
- ・ 過度の熱、ほこり、水分、湿度、衝撃、振動、腐食性物質、可燃性物質、静電気などの環境下に、保護筐体なしで VisionView を設置しないでください。
- ・ VisionView を直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- ・ 重い物、硬い物、尖った物でタッチスクリーンに触れないでください。
- ・ VisionView には、ユーザが修理できる部品はありません。電氣的または機械的な変造を加えないでください。許可なく変造を行った場合は、保証が無効になります。
- ・ 各種規格関連団体からの明示的な了承なしに変更、変造を行った場合は、本機器の使用権限を失う可能性があります。
- ・ VisionView は屋内設置用として設計されています。

はじめに

VisionView オペレータインタフェースパネル	1
VisionView オペレータインタフェースパネルのサポート	1

VisionView の設置

VisionView の取り付け	3
ネットワークケーブルの接続	5
電源ケーブルの接続	7

ユーザインタフェースの概要

セットアップモード（管理者用）	9
センサの手動選択	10
[言語]	12
[画面レイアウト]	12
[設定]	15
実行モード（オペレータ）	19
マルチ表示モード	20
シングル表示モード	21
[オプション]	23
ファームウェアのアップグレード	24

In-Sight カスタムビューおよび EasyView

対話型グラフィックスモード	26
ハンドル選択ボタン	26
[移動] ハンドル	27
[サイズ変更] ハンドル	27
[回転] ハンドル	28
[カーブ] ハンドル	28
数値入力モード	29
サポートしている対話型コントロール	30
Button	30
Checkbox	30

Dialog	30
EditAnnulus	30
EditCircle	30
EditCompositeRegion	30
EditFloat	31
EditInt	31
EditLine	31
EditPoint	31
EditPolygon	31
EditRegion	31
EditString	31
ListBox	32
Wizards	32
サポートしているフォント	32
文字列の表示方法	
画像に文字列を表示する (In-Sight センサ)	33
仕様	
一般的な仕様	35
電源コネクタの仕様	36
VisionView 700 寸法図	37
付録 A	
クリーニング / メンテナンス	39

VisionView オペレータインタフェースパネル

VisionView オペレータインタフェースパネルは、操作の簡単なパネルマウントタイプの表示器です。この 1 台で複数のビジョンセンサの画像および合格 / 不合格データを同時に表示できるため、生産現場への PC の設置が不要となります。

注:

- ・ VisionView オペレータインタフェースパネルは、ファームウェアバージョン 4.1.0 以降の In-Sight Micro ビジョンシステムシリーズ、ファームウェアバージョン 3.1.0 以降の In-Sight 3400 および 5000 シリーズ、Framework 2.7 以降および Intellect 1.3 以降の DVT 515、535、535C、545、545C、550、554、554C および XS をサポートします。
- ・ ファームウェアバージョン 3.x.x の In-Sight センサでは、処理時間が長くなる場合があります。Intellect 1.4 以前のバージョン、あるいは Framework の DVT センサは画像更新が遅くなることがあります。In-Sight センサはファームウェアバージョン 4.1 以降に、DVT センサは Intellect 1.5 以降に更新することを推奨します。

本取扱説明書では、VisionView オペレータインタフェースパネルの標準コンポーネントへの接続方法およびユーザインタフェースの設定について説明します。オプションおよびアクセサリ一覧につきましては製品のご購入先にお問い合わせください。

VisionView オペレータインタフェースパネルのサポート

VisionView オペレータインタフェースパネル、ユーザインタフェースの使用法およびリリースノートについては、Cognex オンラインサポートセンター <http://www.cognex.com/ckksupport/common/welcome.asp> にアクセスしてください。

VisionView の取り付け

1. パネルに取り付け用の穴を開けます（37 ページの VisionView 700 寸法図をご参照ください）。

注： パネルに取り付け用の穴を開ける際には、専門の加工業者に依頼されることを強く推奨します。

2. スクリーン面を下に向け、清潔で水平な場所に VisionView を置きます。
3. ラバーガasketを VisionView の背面からはめ、VisionView フェースプレートの裏に密着させます。
4. パネルカット部分を VisionView の背面からはめ、ラバーガasketに密着させます。



図 2-1: ラバーガasketおよびパネル

5. 取り付けクリップに M4 ねじを差しこみ、途中までねじを締めます。
6. ディスプレイの周囲にある 8 つの挿入ポイントの 1 つに、取り付けクリップを差し込みます。
7. 適切な位置に取り付けクリップをしっかりと固定し、3mm の六角レンチでねじを締めます。最大締め付けトルクは 0.226 N・m (2 in-lb) です。残りの 7 組のねじおよび取り付けクリップも同様の作業を繰り返し、VisionView をしっかりとパネルに取り付けます。正しく取り付けした VisionView ディスプレイを正面から見ると、外周に沿って 1.5mm 幅以下のラバーガasketが見えます。

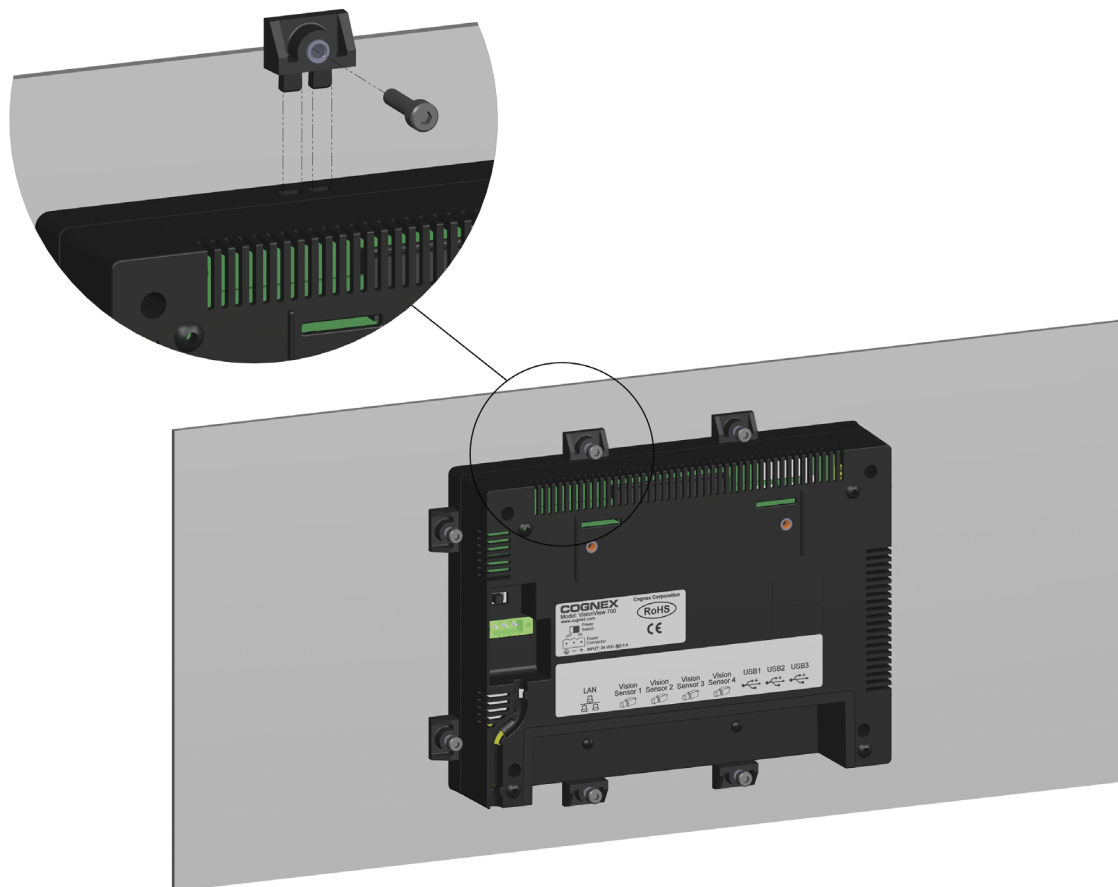


図 2-2: 取り付けクリップとねじを差し込む

ネットワークケーブルの接続

注:

- ・ VisionView の標準コンポーネントにネットワークケーブルは含まれておりません。別途ご購入ください。
- ・ VisionView の Vision Sensor ポートは、パワーオーバーイーサネット (PoE) での電源供給を必要とする Cognex 製ビジョンセンサに電源を供給します。これらのポートに Cognex 社製以外のデバイスを接続すると、VisionView が故障する恐れがあります。

下図の構成は、VisionView に 4 台の In-Sight または DVT センサを直接接続し、VisionView の LAN ポートに PC を接続している様子を示しています。PC は In-Sight Explorer や Intellect ソフトウェアを使用してビジョンセンサと通信します。VisionView にセンサを接続するには、VisionView の Vision Sensor ポートにセンサのネットワークケーブルを直接差し込みます。VisionView と PC を接続する場合、VisionView の LAN ポートにネットワークケーブルの一端を差し込み、もう一端を PC のネットワークカードに差し込んでください。

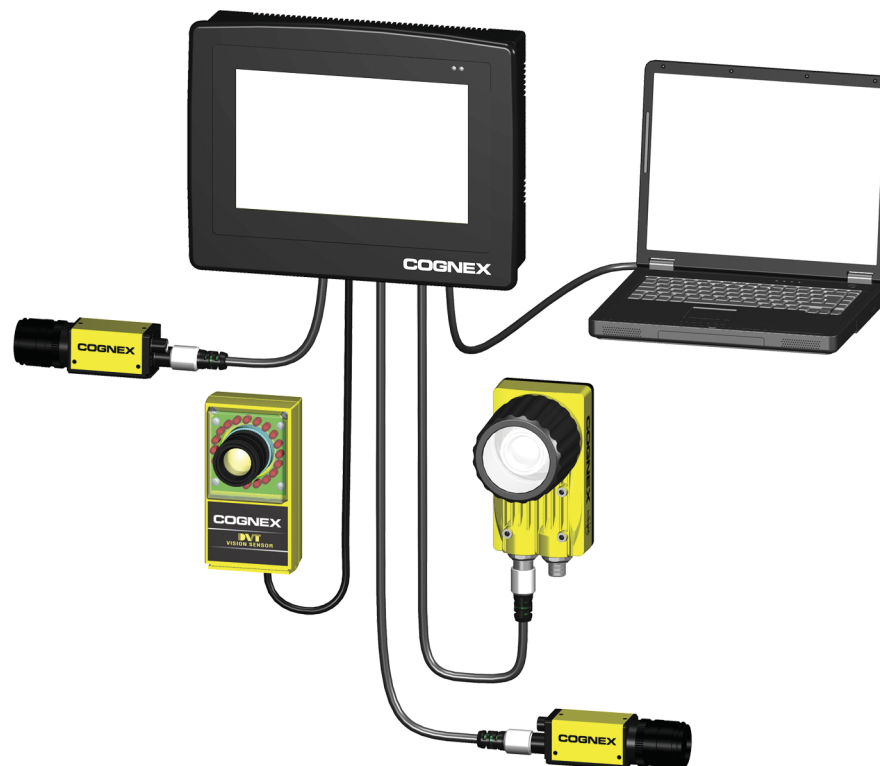


図 2-3: スタンドアローンネットワーク

下図の構成は、VisionView の LAN ポートをスイッチングハブ / ルータまたは工場のネットワークに接続して、VisionView で生産現場のビジョンセンサをモニタリングしている様子を示しています。また、これと同時に 4 台までの In-Sight または DVT センサを VisionView に直接接続することが可能です。VisionView にスイッチングハブ / ルータを接続するには、VisionView の LAN ポートにネットワークケーブルを差し込み、もう一端をスイッチングハブ / ルータの空きポートに差し込みます。必要に応じて、VisionView の Vision Sensor ポートにセンサのネットワークケーブルを差し込んでください。



図 2-4: 工場ネットワークに接続された VisionView

電源ケーブルの接続

注： VisionView の通常コンポーネントに電源ケーブルは含まれておりません。別途ご購入ください。

1. 24VDC 電源装置から電源が出力されていないことを確認してから接続します。
2. VisionView に付属している緑色の電源コネクタの 2 番ピンに電源ケーブルのグラウンドワイヤを接続し、3 番ピンに +24V ワイヤを接続します。必要に応じて、1 番ピン（シールド）にアースを接続してください（36 ページの表 6-2 をご参照ください）。
3. 緑色のコネクタを電源コネクタポートに挿入し、コネクタねじで締めてください。
4. 24VDC 電源を入れます。
5. 電源コネクタの隣にある電源スイッチを ON にしてください。



図 2-5: 電源ケーブルの接続

警告： AC 電源を直接 VisionView コネクタに接続しないでください。



VisionView に初めて電源を入れたとき、または VisionView のファームウェアを更新したときは、タッチスクリーンのキャリブレーションを行う必要があります。画面上を移動するターゲットアイコンをタッチしてください。キャリブレーションが完了すると、ターゲットアイコンが消えます。作業を続けるには、もう一度スクリーンをタッチしてください。

注: 正確にタッチしないとキャリブレーションは完了しません。

タッチスクリーンのキャリブレーション後、言語を設定します。言語を指定してから **[OK]** をクリックすると、**[セットアップモード]** 画面が開きます。VisionView の残りの設定を行ってください。

セットアップモード（管理者用）

管理者は **[セットアップモード]** を使用して、**[実行モード]** のオペレータインタフェースを設定することができます。

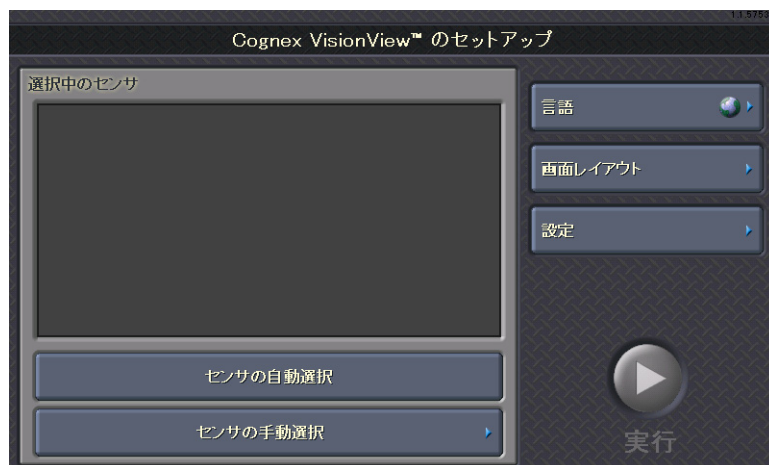


図 3-1: セットアップ

[センサの自動選択]: In-Sight および DVT センサを自動的に検出し、**[選択中のセンサ]** リストを作成します。

- VisionView の Vision Sensor ポートにセンサが接続されている場合、**[選択中のセンサ]** のリストにポート番号順に追加されます。LAN ポート側のネットワーク上にあるセンサは手動で追加する必要があります。
- VisionView の Vision Sensor ポートに接続されているセンサが 1 台もない場合、**[選択中のセンサ]** のリストには LAN ポート側のネットワーク上で検出されたセンサがアルファベット順に 9 台まで追加されます。

注:

VisionView に初めて電源を投入した場合は、VisionView に直接接続されているセンサが自動的に検出され、**[センサの自動選択]** ボタンを押さなくても、**[選択中のセンサ]** リストに追加されます。

[センサの手動選択]: **[センサの手動選択]** 画面が開き、ネットワーク上のすべての In-Sight および DVT センサが検出されます。最大 9 台までのセンサを **[選択中のセンサ]** に手動で追加することができます。

[言語]: VisionView インタフェースで使用される言語を指定します。

[画面レイアウト]: 実行モードのオペレータコントロールを定義することができます。

[設定]: VisionView 管理者パスワード、アイドルタイムアウト、ネットワーク、センサ、ディスプレイ、および画像品質の設定をしたり、VisionView の設定を工場出荷時の状態に戻したり、センサのユーザ名やパスワードを設定したりすることができます。

[実行]: 実行モードに切り替えます。選択中のセンサにログオンして、各センサに設定されたオペレータコントロールを表示します。**[選択中のセンサ]** リストにセンサがない場合、**[実行]** ボタンは利用できません。

センサの手動選択

VisionView の管理者は、実行モード時に表示されるセンサを選んだり表示順を変更したりすることができます。



図 3-2: センサの手動選択

[検出されたセンサ]: ネットワーク上に検出されたすべてのセンサをリスト表示します。VisionView と同じサブネット上のセンサのみ検出されます（16 ページの「ネットワーク設定」をご参照ください）。VisionView から他のサブネット上のセンサに接続する場合は、「他のセンサの追加」ボタンを押してセンサを追加します。

[選択中のセンサ]: 「検出されたセンサ」リストまたは「他のセンサの追加」画面で管理者によって追加された、すべてのセンサまたはエミュレータを表示します。「マルチ表示」モードは、このリストで並べたセンサの順番で表示されます。

注:

エミュレータは自動的に検出されません。エミュレータを「選択中のセンサ」リストに追加するには、「他のセンサの追加」ボタンをクリックしてください。

[追加]: ハイライトされたセンサを「検出されたセンサ」リストから「選択中のセンサ」リストへ移動します。「選択中のセンサ」リストには 9 台まで登録できます。

[削除]: ハイライトされたセンサまたはエミュレータを「選択中のセンサ」リストから削除します。

[すべて削除]: 「選択中のセンサ」リストからすべてのセンサおよびエミュレータを削除します。

[更新]: 「検出されたセンサ」リストを更新して、現在ネットワークに接続されているセンサを表示します。

[他のセンサの追加]: エミュレータまたは他のサブネット上のセンサを「選択中のセンサ」リストに追加します。「選択中のセンサ」リストには、9 台まで登録できます。

[▲（上に移動）]: 「選択中のセンサ」リスト中のハイライトされたセンサまたはエミュレータを、上に移動します。

[詳細設定]: ハイライトされたセンサまたはエミュレータの「センサの詳細設定」画面を開き、センサまたはエミュレータの表示名を手動で変更することができます。

[▼（下に移動）]: 「選択中のセンサ」リスト中のハイライトされたセンサまたはエミュレータを、下に移動します。

[他のセンサの追加]

セットアップ: 他のセンサの追加

表示名: <表示名を入力> 編集

デバイス名 / IP アドレス: <アドレスを入力> 編集

センサタイプ: In-Sight

OK 確認 キャンセル

図 3-3: 他のセンサの追加

[表示名]: 実行モードで表示されるセンサまたはエミュレータの名前を設定します。実行モードで表示されるセンサまたはエミュレータの名前が変わります。ただしデバイス名は変更されません。

[デバイス名 / IP アドレス]: センサまたはエミュレータの IP アドレスまたはデバイス名（ネットワーク上のドメイン名解決で使用する名前）を指定します。センサがネットワーク上の DNS サーバに登録されていない場合、またはセンサと VisionView が同じサブネット上にない場合は、IP アドレスで指定する必要があります。センサがリンクローカルでリンクローカル IP アドレスに接続されている場合、デバイス名で指定する必要があります。

[センサタイプ]: 追加するセンサまたはエミュレータのタイプを指定します（In-Sight、In-Sight Micro、または DVT）。

[センサの詳細設定]

セットアップ: センサの詳細設定

表示名: is5100_010203 編集

デバイス名 / IP アドレス: 192.168.0.1

センサタイプ: In-Sight

OK 確認 キャンセル

図 3-4: センサの詳細設定

[表示名]: 実行モードで表示されるセンサまたはエミュレータの名前を設定します。実行モードで表示されるセンサまたはエミュレータの名前が変わります。ただしデバイス名は変更されません。

[デバイス名 / IP アドレス]: センサまたはエミュレータの IP アドレスまたはデバイス名（ネットワーク上のドメイン名解決で使用する名前）を表示します。

[センサタイプ]: センサまたはエミュレータのタイプを表示します（In-Sight、In-Sight Micro、または DVT）。

[言語]

管理者は、この画面を利用して、実行モード時に利用可能なオペレータコントロールを指定することができます。



図 3-5: 言語

使用可能な言語：

- ・ 英語
- ・ 日本語
- ・ 中国語（簡体字）
- ・ 韓国語
- ・ ドイツ語
- ・ スペイン語
- ・ フランス語
- ・ イタリア語

[画面レイアウト]

管理者は、この画面を利用して、実行モード時に利用可能なオペレータコントロールを指定することができます。



図 3-6: 画面レイアウト

[オペレータコントロール]

- ・ [オンライン / オフライン]: オンライン / オフライン状態の切り替えをオペレータに許可します。
- ・ [フォーカス]: ライブ画像の表示をオペレータに許可します。
- ・ [トリガ]: センサに検査トリガを与えることをオペレータに許可します。
- ・ [表示切り替え]: センサのビュー切り替えをオペレータに許可します。
- ・ [ジョブの変更]: ジョブファイルのロードをオペレータに許可します。

- ・ [**ジョブの保存**]: 使用中のセンサにジョブファイルを保存することをオペレータに許可します。
- ・ [**言語**]: VisionView インタフェースで使用する言語の切り替えをオペレータに許可します。
- ・ [**フィルムストリップ**]: 最新のフィルムストリップの閲覧をオペレータに許可します。フィルムストリップは、シングル表示モードでのみ表示されます。
 - ・ [**オプション**]: オペレータレベルのフィルムストリップコントロールを設定します。

注:

フィルムストリップは、In-Sight センサファームウェアバージョン 3.4.0 以降でサポートされています。フィルムストリップを表示するには、あらかじめ In-Sight Explorer でセンサのフィルムストリップを設定しておく必要があります。

[**ステータスアイコン**]: 合格、不合格および警告インジケータとして使用するアイコンを表示します。

- ・ [**変更**]: インジケータアイコンの種類を切り替えます。

[フィルムストリップのオプション]



図 3-7: フィルムストリップのオプション

[**リジェクト時**]: 検査不合格時のフィルムストリップの動作を定義します。

- ・ [**続行**]: 検査が不合格となってもフィルムストリップは停止せず、更新を続けます。
- ・ [**一時停止**]: 検査が不合格の場合、フィルムストリップは 5 秒間停止し、その後更新を続けます。
- ・ [**フリーズ**]: 検査が不合格の場合、[**続行**] ボタンをクリックするまで、フィルムストリップは更新を停止します。
- ・ [**オペレータにリジェクト時動作の設定変更を許可する**]: セットアップモードで指定されたリジェクト動作を実行モード中に変更することをオペレータに許可します。ただし、実行モード中の変更は一時的なもので、セットアップモードに戻ったり VisionView の電源を入れ直したりした場合は、指定されたリジェクト動作に戻ります。

【画像アーカイブ】: フィルムストリップ画像の保存方法を指定します。

- ・ 【オペレータに画像保存先の設定変更を許可する】: USB ドライブまたはネットワークロケーションのどちらかにフィルムストリップ画像を保存するかどうかの設定をオペレータに許可します。画像は、センサの表示名を元に自動的に作成されたサブディレクトリに保存されます。

注: In-Sight エミュレータを FTP サーバとして使用している場合、センサ特有のサブディレクトリは自動的に作成されません。画像を保存するには、Windows に搭載されている FTP サーバ機能の使用を推奨します。

- ・ 【USB ドライブ】: 【編集】をクリックし、フィルムストリップ画像を保存する、USB ドライブのディレクトリを指定します。ロケーションには、正しいディレクトリパスの名前（例: "Images" または "Images\Line1"）を指定してください。ディレクトリが存在しない場合は、自動的に作成されます。

注:

- ・ VisionView には複数の USB ドライブを接続しないでください。
- ・ フィルムストリップから USB ドライブに保存した画像には、正しいタイムスタンプが記録されません。

- ・ 【ネットワークロケーション】: フィルムストリップ画像を保存するネットワークロケーションを指定します。

【ネットワークロケーションに画像保存】

図 3-8: ネットワークロケーションに画像保存

【ファイルまたは FTP のロケーション】: 画像を保存するファイルまたは FTP のネットワークロケーションを指定します。Microsoft Windows ネットワークでは、ファイルロケーションはネットワークデバイス名となります（例: ¥¥ImageServer¥¥Line1¥¥Images）。FTP サーバでは、ロケーションは FTP アドレスとなります（例: ftp://FTPServer/Line1/Images）。

【ファイルまたは FTP のユーザ名】: ネットワークユーザ名を入力し、認証が必要なネットワークにクレデンシャルを与えます。

【ファイルまたは FTP のパスワード】: ネットワークパスワードを入力し、認証が必要なネットワークにクレデンシャルを与えます。

【ネットワークドメイン】: 【ファイルまたは FTP のユーザ名】フィールドに入力したユーザのドメイン名を入力します。ドメイン名は、Microsoft Windows ネットワーク上でファイルを共有する際に、ユーザのクレデンシャルが必要な場合のみ必要です。FTP を使用の場合は、このフィールドは空欄のままにしてください。

[設定]



図 3-9: 設定

[VisionView セキュリティ]

- ・ **[管理者パスワード]** (オプション) : VisionView の管理者パスワードを設定します。管理者パスワードを設定することで、実行モードからセットアップモードへのアクセスを制限することができます
- ・ **[アイドルタイムアウト]** : セットアップモードから実行モードに自動的に切り替えたり、実行モード中に無制限アクセスから制限付きアクセスに自動的に切り替えたりする、非アクティブまでの時間 ([なし] ~ [60 分]、デフォルトは [なし]) を指定します。

[ネットワークの設定] : VisionView のネットワーク設定を行います。

[センサの設定] : センサユーザ名やパスワードを設定したり、実行モード中にユーザ認証が必要かどうかを指定したりします。

[ディスプレイの設定] : タッチスクリーンのバックライトの設定やキャリブレーションを行います。

[画像品質の設定] : オンラインおよびフォーカスモード中の、画質やスピードを設定します。

[工場出荷時の設定に戻す] : VisionView のすべての設定を工場出荷時の設定に戻し、[選択中のセンサ] リストからすべてのセンサを削除します。

[ネットワーク設定]



図 3-10: ネットワーク設定

[デバイス名]: ネットワークに表示される VisionView のデバイス名を設定します。VisionView は初回起動時にデフォルトのデバイス名“VisionViewxxxxx”が自動的に設定されます。“xxxxx”は個々の VisionView に割り当てられている MAC アドレスの下位 5 桁です。

[現在の IP アドレス]: VisionView デバイスに現在割り当てられている IP アドレスを表示します。

[IP アドレスの自動取得] (デフォルト) : VisionView デバイスは、起動時に DHCP を使用し IP アドレスを取得するよう設定されています。このオプションは、VisionView をスタンドアローンのネットワークで使用する場合にも利用できます (11 ページをご参照ください)。

[IP アドレスの手動設定]: [手動設定開始] をクリックして [ネットワークの手動設定] 画面を開き、VisionView デバイスの IP アドレス、サブネットマスクおよびデフォルトゲートウェイを手動で設定します。

[ネットワークの手動設定]

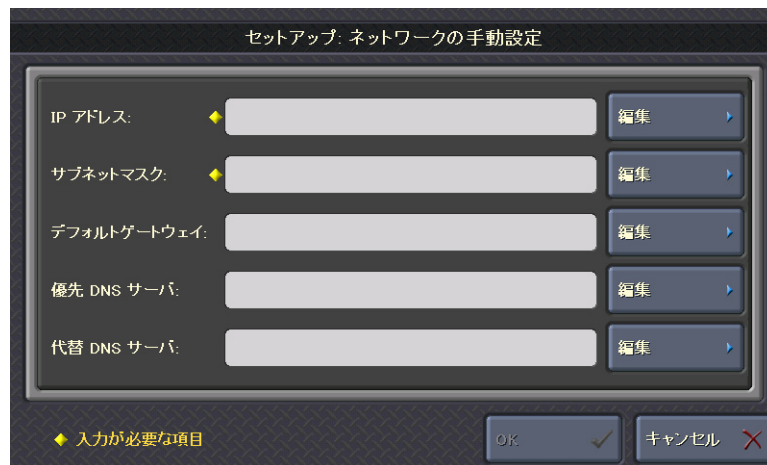


図 3-11: ネットワークの手動設定

[IP アドレス]: VisionView デバイスに固定 IP アドレスを割り当てます。このアドレスは、ローカルネットワークの IP アドレス割り当てルールに合致している必要があります。

[サブネットマスク]: IP アドレスのどの部分がネットワークを表し、どの部分がホストを表すかを定義します。IP アドレスのネットワーク部分が、同一サブネット上のすべてのホストと同じとなり、残り部分は各ホスト固有のものとなるようにします。ネットワーク上のセンサを検出するためには、センサと同じサブネット上に VisionView が存在する必要があります。ネットワークの構成によっては、VisionView から他のサブネット上のセンサに接続することができます。

[デフォルトゲートウェイ]: ネットワーク上に利用可能なゲートウェイホストがある場合に、その IP アドレスを指定します。ゲートウェイホストは、異なるネットワーク間でデータを中継します。

[優先 DNS サーバ] (オプション) : DNS サーバが利用可能な場合は、その IP アドレスを入力してください。

【代替 DNS サーバ】（オプション）：優先 DNS サーバがサービスリクエストに応じられない場合に使用される、代替 DNS サーバを特定します。

【センサの設定】

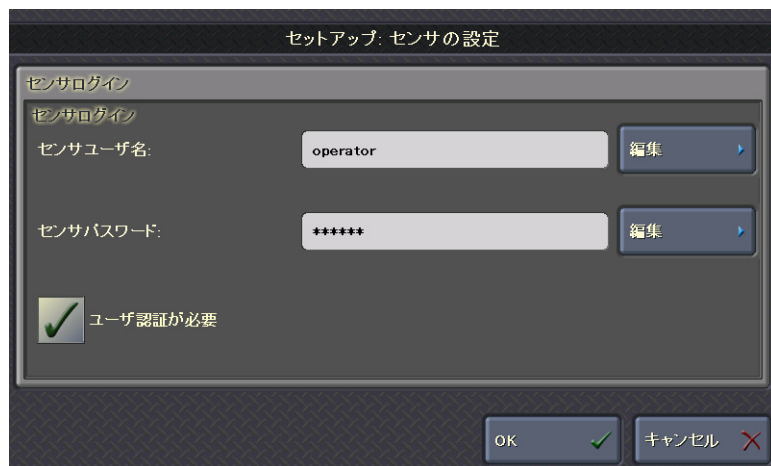


図 3-12: センサの設定

【センサログイン】

- ・ 【センサユーザ名】（オプション）：接続ユーザ名を入力します。このユーザ名は、選択中のすべてのセンサとの接続に使用されるため、すべてのセンサのユーザ名と一致する必要があります。接続ユーザ名を <デフォルト> または空欄にした場合、VisionView は適切なセンサユーザ名を自動的に選択します。In-Sight センサのデフォルトユーザ名は admin、DVT センサでは Administrator となります。センサユーザ名の権限レベルは、In-Sight Explorer および Intellect ソフトウェアで設定します。

- ・ 【センサパスワード】（オプション）：接続パスワードを入力します。このパスワードは選択中のすべてのセンサとの接続に使用されるため、すべてのセンサのパスワードと一致する必要があります。パスワードを空欄にした場合、VisionView は適切なセンサパスワードを自動的に選択します。In-Sight および DVT とともにデフォルトのパスワードは未設定です。
- ・ 【ユーザ認証が必要】：チェックボックスを ON にすると、【フリーズ】、【続行】、【表示切替】および【すべてのセンサ】ボタンをクリックする以外、実行モード時のすべての動作が制限されます。ユーザが制限された動作を実行しようとする、センサパスワードを再入力するように指示されます。ログイン中、ユーザは制限付き実行モードへのアクセスを許可され、ログイン状態は実行モード中のすべてのセンサに対して有効となります。動作を終了したら、【オプション】画面の【ログオフ】ボタンをクリックして、制限付きアクセスモードに戻ります。手動でログオフしない場合、【アイドルタイムアウト】で設定した時間を過ぎると、自動的にタイムアウトします（15 ページの【設定】をご参照ください）。

注：

パスワードが空欄の場合、【ユーザ認証が必要】チェックボックスは無効となります。

[ディスプレイの設定]

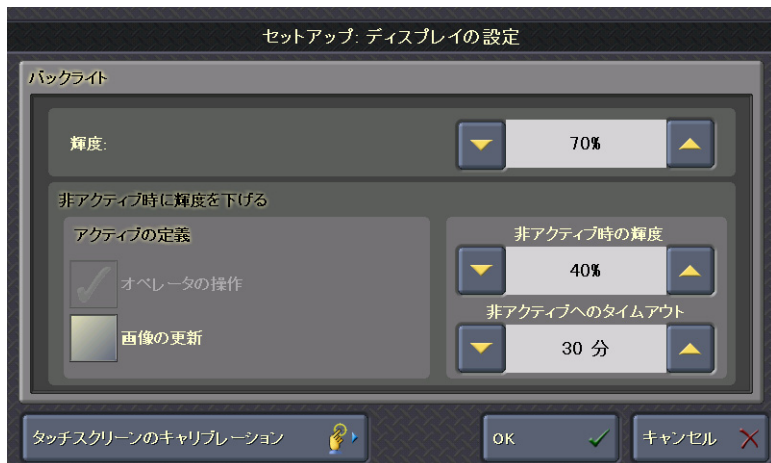


図 3-13: ディスプレイの設定

[輝度]: バックライトを 10% 単位で明るくしたり、暗くしたりします (10 ~ 100%、デフォルトは 70%)。

注: 輝度レベルを 70% より大きな値に設定すると、バックライトの寿命が短くなる可能性があります。

[非アクティブ時に輝度を下げる]

・ [アクティブの定義]:

- ・ **[オペレータの操作]:** [非アクティブへのタイムアウト] で指定された時間内にオペレータの操作がないとき、ディスプレイは [非アクティブ時の輝度] で指定された暗さになります。このオプションはデフォルトで ON で、常にグレーアウトされています。
- ・ **[画像の更新]:** [非アクティブへのタイムアウト] で指定された時間内に画像が更新されないとき、ディスプレイ

は [非アクティブ時の輝度] で指定された暗さになります。

[非アクティブ時の輝度]: 非アクティブ時のバックライトの明るさ (10 ~ 100%、デフォルトは 10%)。

[非アクティブへのタイムアウト]: バックライトが自動的に暗くなる、非アクティブまでの時間 (なし ~ 60 分、デフォルトは 30 分)。

[タッチスクリーンのキャリブレーション]: タッチスクリーンのキャリブレーションを行います。スクリーン上を移動するアイコンをタッチすると、タッチスクリーンのキャリブレーションが完了します。この画面を操作できるのは管理者のみです。

[画像品質の設定]

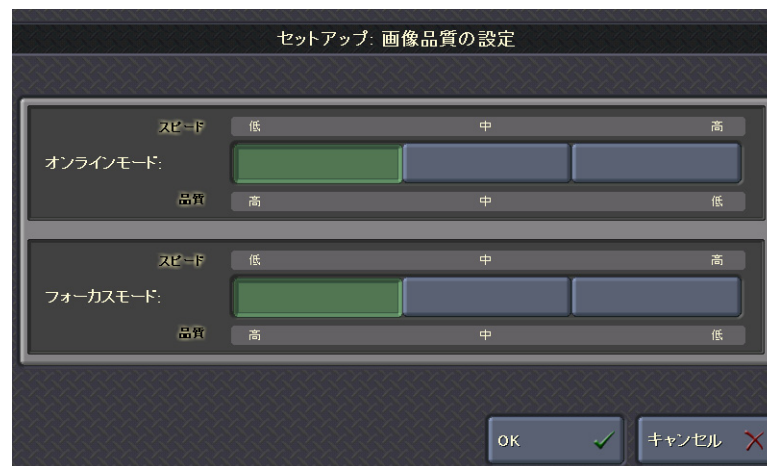


図 3-14: 画像品質の設定

[オンラインモード]: センサがオンライン時の画質およびフレームレートを指定します。

- ・ **低スピード & 高品質 (デフォルト):** 最高画質に、低フレームレート。

- ・ **中スピード & 中品質**: 多少低下した画質に、増加したフレームレート。
 - ・ **高スピード & 低品質**: 低画質に、最高速のフレームレート。
- [フォーカスモード]: センサがフォーカスモード時の画質とフレームレートを指定します。
- ・ **低スピード & 高品質** (デフォルト): 最高画質に、低フレームレート。
 - ・ **中スピード & 中品質**: 多少低下した画質に、増加したフレームレート。
 - ・ **高スピード & 低品質**: 低画質に、最高速のフレームレート。

実行モード（オペレータ）

VisionView の初期設定を終えると、VisionView は電源投入時に実行モードで起動するようになります。実行モードでは、セットアップモードで選択された各センサへの接続を試みます。VisionView は、センサ接続中にステータスメッセージを表示し、センサへの接続に失敗した場合は、接続失敗ステータスメッセージを表示します。接続に失敗した場合、あるいはネットワーク切断または他の問題によって接続が失われた場合、VisionView は自動的に 10 秒おきに再接続を試みます。DVT センサは、VisionView デバイスおよび Intellect や Framework ソフトウェアを実行している PC からの複数の接続を受け入れますが、In-Sight センサは複数デバイスからの接続を受け入れることができません。したがって、In-Sight センサには 1 台の VisionView デバイスからの接続だけが可能で、しかも、In-Sight Explorer を実行している PC がその In-Sight センサに接続すると、VisionView と In-Sight センサとの接続は強制的に切断されます。

注:

VisionView がファームウェアバージョン 3.4.2 またはそれ以前で動作する In-Sight に接続され、ジョブファイルを実行し、その後センサが In-Sight Explorer からログオンされた場合（センサを強制的に VisionView から切断した場合）、センサはジョブの実行を一時中断し、画像取り込みトリガをミスすることがあります。

実行モードの画面の外観は、有効にしたコントロールおよび画像表示モードによって異なります。画像表示モードにはマルチ表示モードとシングル表示モードの 2 つがあります。

マルチ表示モード

マルチ表示モードでは、画像パネルにすべてのセンサが同時に表示され、すべてのセンサで共通にサポートされているコントロールのみが表示されます。各センサの画像表示サイズは、セットアップモードで選択されたセンサの台数に応じて、自動的に調整されます。

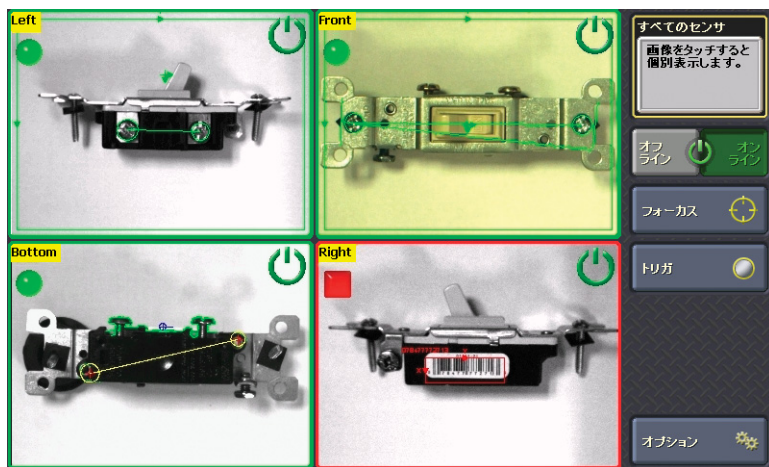


図 3-15: マルチ表示モード

各画像とともに次の情報が表示されます。

- ・ センサの表示名。
- ・ ジョブの合格、不合格または警告ステータスアイコン（利用可能な場合）。
- ・ オンライン、オフライン、フリーズ中、または一時停止アイコンのいずれか。

マルチ表示モードのアイコン：

合格			
不合格			
警告			
オンライン			
オフライン			
フリーズ中			
一時停止			

マルチ表示モードは、セットアップモードで2台以上のセンサが選択された場合に使用可能です。マルチ表示モードからシングル表示モードに切り替えるには、画像パネルのセンサ画像をタッチしてください。

マルチ表示モードのコントロール

[オフライン]: すべてのセンサをオフラインにします。すべてのセンサがオフラインの場合、ボタンは押された形で赤で表示されます。

[オンライン]: すべてのセンサをオンラインにします。すべてのセンサがオンラインの場合、ボタンは押された形で緑で表示されます。

注:

オフラインのセンサとオンラインのセンサの両方が存在する場合、[オフライン] および [オンライン] ボタンは押された形では表示されず、オフラインの文字が赤で、オンラインの文字が緑で表示されます。

[フォーカス]: センサのレンズや視野を調整するためのライブ画像を表示します。

[トリガ]: すべてのセンサに手動トリガを送信します。

[オプション]: 使用中のセンサで利用可能なオプションを設定します。

シングル表示モード

シングル表示モードでは、1 台のセンサ画像およびそのセンサがサポートするコントロールのみを画像パネルに表示します。センサにサポートされていないコントロールや、[画面レイアウト] 画面で有効にされていないコントロールは表示されません。センサユーザー名の権限レベル設定によって、その機能の使用が許可されていない場合も、コントロールが表示されません (17 ページの [センサの設定] をご参照ください)。各ユーザーに許可される権限レベルは、In-Sight Explorer および Intellect ソフトウェアで設定されます。コントロールがサポートされていても、その機能が現在のセンサのステータスによって利用不可能な場合、コントロールは表示されますが使用できません。

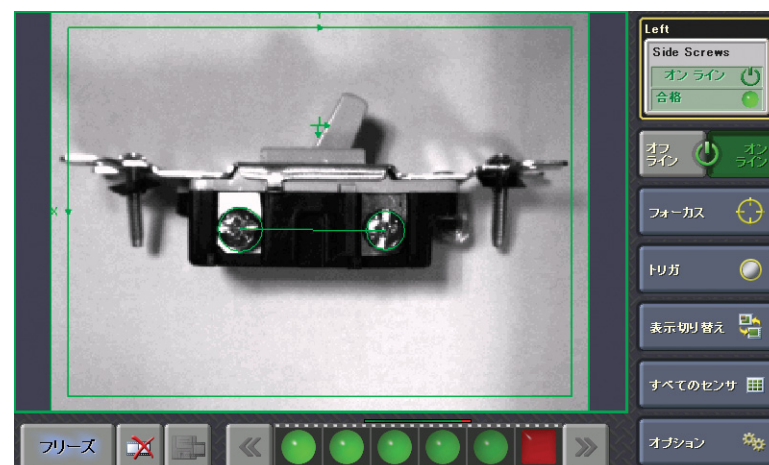


図 3-16: シングル表示モード

注:

In-Sight 3400 センサの画像を表示するには、In-Sight 3400 センサのグラフィカルユーザインタフェースの [カスタマイズ] ダイアログで、センサのデフォルトホストを [なし] に設定する必要があります。

シングル表示モードのコントロール

[センサステータス]: 使用中のセンサ情報を表示します。

次の情報が表示されます。

- ・ センサの表示名。
- ・ 使用中のジョブファイル名。
- ・ センサの状態（オンライン、オフライン、オフライン強制、画像の保存、フリーズ中、一時停止）。
- ・ ジョブの合格、不合格または警告ステータス（利用可能な場合）。

注:

ユーザインタフェース以外を使用して、In-Sight センサをオフラインにした場合、センサのステータスは「オフライン強制」と表示されます。センサがこのステータスの場合、「ジョブ切り替え」は許可されず、センサを「フォーカス」モードにすることもできません。「ジョブ切り替え」や「フォーカス」モードにするには、ユーザインタフェースからセンサをオフラインにしてください。

[オフライン]: センサをオフラインにします。センサがオフラインの場合、ボタンは押された形で赤で表示されます。

[オンライン]: センサをオンラインにします。センサがオンラインの場合、ボタンは押された形で緑で表示されます。

[フォーカス]: センサのレンズや視野を調整するためのライブ画像を表示します。

[トリガ]: センサに対して手動トリガを送信します。

[表示切り替え]: センサのビューを切り替えます。[表示切り替え]は、センサ固有の機能です。

In-Sight センサでは、In-Sight Explorer でのジョブ設定に基づいて、1) 画像とグラフィックスおよび EasyView、2) 画像とグラフィックスおよびカスタムビュー、3) 画像のみ、4) 画像とグラフィックス、5) EasyView のみ、の最大 5 種類のビューが利用可能です。

注:

カスタムビューおよび EasyView はオプションで、In-Sight Explorer で設定します。

DVT センサでは、1) 画像のみ、2) 画像とグラフィックス、3) 画像とグラフィックスおよび SmartLink テーブルといった、数多くの変更可能なビューを利用することができます。

注:

SmartLink テーブルは Intellect で設定します。DVT センサの現在のジョブ（DVT センサではジョブのことをプロダクトと呼びます）で定義されている SmartLink テーブルの数だけビューが用意されます。

[すべてのセンサ]: シングル表示モードから、マルチ表示モードに画像パネルを切り替えます。

[オプション]: 使用中のセンサで利用可能なオプションを設定します。

[フィルムストリップ]: フィルムストリップには、センサの検査結果が表示されます。結果がセンサに保存されるたび、ステータスアイコンがフィルムストリップに追加されます。結果画像を表示するには、フィルムストリップのステータスアイコンをタッチします。アイコンに対応する取り込み画像とそれに付随するデータ（現在のビューで表示可能な場合）が画像パネルに表示され、フィルムストリップの更新が停止します。

次の状態になった場合、フィルムストリップは更新を停止します。

- ・ リジェクト時の動作で「一時停止」または「フリーズ」を指定しているときに、不合格ステータスを受信した場合。
- ・ フィルムストリップで結果が選択されているか、[フリーズ] ボタンがクリックされた場合。

注:

- ・ センサのオンライン時に、フィルムストリップをフリーズした場合、センサのジョブは引き続き実行されますが、VisionView のディスプレイは更新されません。
- ・ In-Sight センサでフィルムストリップを利用するには、バージョン 3.4.0 以降のファームウェアが必要です。また、あらかじめ In-Sight Explorer でセンサのフィルムストリップを設定しておかなければなりません。
- ・ フィルムストリップを無効にすることにより、センサのオンライン時に、VisionView の画像更新頻度が高くなる可能性があります。

フィルムストリップのボタン / インジケータ:



各検査の結果ステータス。黄色のハイライトは、現在フィルムストリップで選択されている結果を示します。灰色の四角形は、フィルムストリップの現在表示されている部分を示します。

フリーズ

【フリーズ】をクリックして、結果を確認します。

続行

【続行】をクリックして、フィルムストリップの更新を再開します。



フィルムストリップの結果を消去します。



フィルムストリップの結果を保存します。



フィルムストリップ内の、前の画像に戻ります。このボタンが表示されるのは、画像の数がフィルムストリップ内に保存可能な数を超えた場合のみです。



フィルムストリップ内の、次の画像に進みます。このボタンが表示されるのは、画像の数がフィルムストリップ内に保存可能な数を超えた場合のみです。

【オプション】

オプション画面の外観は、セットアップモードで有効にしたオペレータコントロールまたは画像表示モードによって異なります。マルチ表示モードでは、すべてのセンサで共通にサポートされているオペレータコントロールのみが表示されます。シングル表示モードでは、選択中のセンサでサポートされているコントロールが表示されます。



図 3-17: オプション

【フィルムストリップ】

【リジェクト時】: 検査不合格時のフィルムストリップの動作を変更します。実行モード中の変更は一時的なもので、セットアップモードに戻ったり VisionView の電源を入れ直したりした場合は、指定されたリジェクト動作に戻ります。

- ・ 【続行】: 検査が不合格となっても、フィルムストリップは停止せず、更新を続けます。

- ・ **【一時停止】**: 検査が不合格の場合、フィルムストリップは 5 秒間停止し、その後更新を続けます。
- ・ **【フリーズ】**: 検査が不合格の場合、**【続行】** ボタンをクリックするまでフィルムストリップは更新を停止します。

【VisionView の設定】: 実行モードを終了し、セットアップモードに切り替えます。セットアップモードに切り替えるには、管理者パスワードを入力する必要があります。

【ログオフ】: 設定モードの **【ユーザ認証が必要】** チェックボックスが ON のときに (17 ページの **【センサの設定】** をご参照ください)、実行モード中にユーザが制限された動作を実行しようとする、センサパスワードを再入力するように指示されます。動作を終了したら、**【オプション】** 画面の **【ログオフ】** ボタンをクリックして、制限付きアクセスモードに戻ります。手動でログオフしない場合、**【アイドルタイムアウト】** で設定した時間を過ぎると、自動的にタイムアウトします。

【言語】: VisionView インタフェースで使用する言語を選択します。

【新規ジョブの選択】: 使用中のセンサにジョブファイルをロードすることができます。センサに保存されたジョブのみロードすることができます。VisionView で新規ジョブを選択すると、センサのスタートアップジョブの設定が変更されます。

【ジョブの保存】: 使用中のセンサにジョブを保存することができます。

ファームウェアのアップグレード

VisionView ファームウェアのアップグレード手順については、VisionView メンテナンスユーティリティのヘルプファイルをご参照ください。

In-Sight Explorer でカスタムビューまたは EasyView を作成して、VisionView のデータ表示方法をカスタマイズしたり、生産現場でジョブに簡単な修正を加えることをオペレータに許可したりすることができます。オペレータができる修正のタイプは、ジョブに保存された対話型コントロールや、センサユーザ名の権限レベル設定、および [センサの設定] 画面で [ユーザ認証が必要] チェックボックスが ON になっているかどうかによって異なります (17 ページの [センサの設定] をご参照ください)。

サポートしている対話型コントロールのタイプには、さまざまなレベルのものがあります。一番シンプルな対話型コントロールでは、オペレータはボタンを押したり、チェックボックスを ON/OFF にしたりすることができます。また、より複雑な対話型コントロールでは、ユーザは対話型グラフィックスを使用して、対象領域に対するポジション、サイズ、回転およびカーブを簡単に設定することができます。

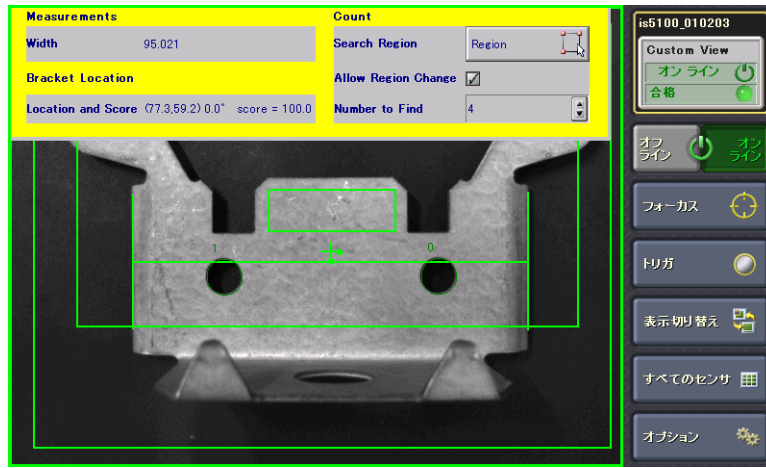


図 4-1: カスタムビュー (サンプル)

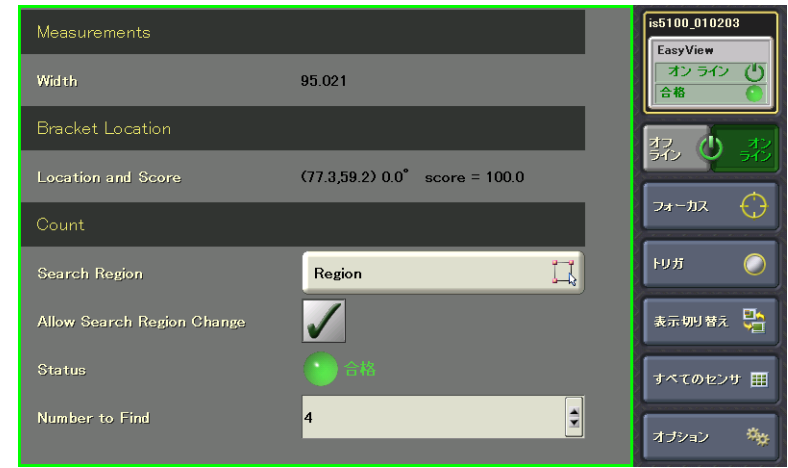


図 4-2: EasyView (サンプル)

注:

- ・ カスタムビューは In-Sight Explorer スプレッドシートビューで作成します。EasyView はスプレッドシートビューまたは EasyBuilder ビューで作成します。
- ・ カスタムビューは画像およびグラフィックスを重ねて表示します。カスタムビューのサイズおよび位置により、画像およびグラフィックスが VisionView に表示されるかどうか決定されます。
- ・ カスタムビューを In-Sight Explorer で作成する場合、VisionView から対話型コントロールを選択しやすいよう、スプレッドシートの行と列のサイズ変更が必要になることがあります。

対話型グラフィックスモード

対話型グラフィックスコントロールを押して対話型グラフィックスモードに入ると、画像、対話型グラフィックスおよびハンドル修正パネルにビューが切り替わります。画像パネル上の目的のハンドルをタッチしてハンドルをアクティブにするか、またはハンドル選択ボタンを使用してハンドルを選択します。ハンドルのポジションを調整するには、新しいポジションに手でドラッグするか、微調整ボタンを使用してください。利用可能なハンドルの種類は、修正中のコントロールや、In-Sight Explorer でハンドルを有効に設定したかどうかによって異なります。

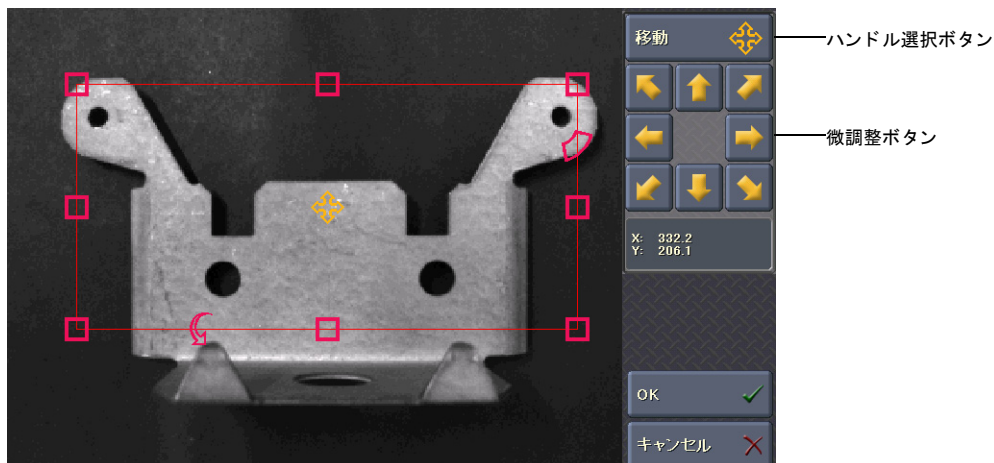


図 4-3: 対話型グラフィックスモード

ハンドル選択ボタン

アクティブなハンドルの名前を表示します。画像パネルでは、アクティブなハンドルは黄色で表示され、非アクティブなハンドルは赤で表示されます。ハンドル選択ボタンを押すと、[移動]ハンドル、[サイズ変更]ハンドル、[回転]ハンドル、[カーブ]ハンドルの順番で利用可能なハンドルが切り替わります。

❖ [移動] ハンドル

画像に表示されたグラフィックスを移動させます。移動ハンドルは、グラフィックスの中心位置に表示されます。微調整ボタンを使用してグラフィックスを再配置する場合、ハンドルは指定の方向に 1 ピクセルずつ移動します。移動ハンドルがアクティブの場合、X および Y 座標が表示されます。

注： 斜めのボタンは、ハンドルを水平方向と垂直方向の両方に、それぞれ 1 ピクセル移動させます。

表 4-1: 移動動作

動作	微調整ボタン	タッチスクリーン
左へ移動	左矢印	移動ハンドルを選択して、左にドラッグします。
右へ移動	右矢印	移動ハンドルを選択して、右にドラッグします。
上へ移動	上矢印	移動ハンドルを選択して、上にドラッグします。
下へ移動	下矢印	移動ハンドルを選択して、下にドラッグします。
斜めに移動	斜め矢印	移動ハンドルを選択して、斜めにドラッグします。

□ [サイズ変更] ハンドル

画像に表示されたグラフィックスをサイズ変更します。微調整ボタンを使用してグラフィックスをサイズ変更する場合、ハンドルは指定の方向に 1 ピクセルずつ移動します。サイズ変更ハンドルがアクティブの場合、修正中のコントロールの種類によって、幅と高さ、半径、または移動ハンドルの X および Y 座標が表示されます。

注： 斜めのボタンは、ハンドルを水平方向と垂直方向の両方に、それぞれ 1 ピクセル移動させます。

表 4-2: サイズ変更動作

動作	微調整ボタン	タッチスクリーン
左へ移動	左矢印	サイズ変更ハンドルを選択して、左にドラッグします。
右へ移動	右矢印	サイズ変更ハンドルを選択して、右にドラッグします。
上へ移動	上矢印	サイズ変更ハンドルを選択して、上にドラッグします。
下へ移動	下矢印	サイズ変更ハンドルを選択して、下にドラッグします。
斜めに移動	斜め矢印	サイズ変更ハンドルを選択して、斜めにドラッグします。

[回転] ハンドル

領域の回転を調整します（時計方向または逆時計方向）。微調整ボタンを使用してグラフィックスを回転すると、グラフィックスは指定の方向に 1 度回転します。回転ハンドルがアクティブの場合、現在の回転角度が表示されます。

表 4-3: 回転動作

動作	微調整ボタン	タッチスクリーン
逆時計方向に回転	左矢印	回転ハンドルを選択して、逆時計方向にドラッグします。
時計方向に回転	右矢印	回転ハンドルを選択して、時計方向にドラッグします。

[カーブ] ハンドル

カーブ領域（円弧領域を作成するのに使用されます）を調整します。微調整ボタンを使用してカーブを調整すると、グラフィックスは指定の方向に 1 度カーブします。カーブハンドルがアクティブの場合、現在のカーブ角度が表示されます。

表 4-4: カーブハンドル

動作	微調整ボタン	タッチスクリーン
上にカーブ	上にカーブ	カーブハンドルを選択して、下にドラッグします。
下にカーブ	下にカーブ	カーブハンドルを選択して、上にドラッグします。

数値入力モード

EditFloat または EditInt コントロールを押して、数値入力モードに入ります。数値を調整するには、数字キーパッドあるいは、[上へ] (▲) または [下へ] (▼) ボタンを押します。[上へ] または [下へ] ボタンを押すと、数字が許容範囲内で 1 つ増減します。数字キーパッドを使用する場合、[上へ] および [下へ] ボタンは無効となり、[クリア] ボタンは有効となります。数値が許容範囲内の場合、セルの背景は青になり、許容範囲外の場合、セルの背景はピンクになります。

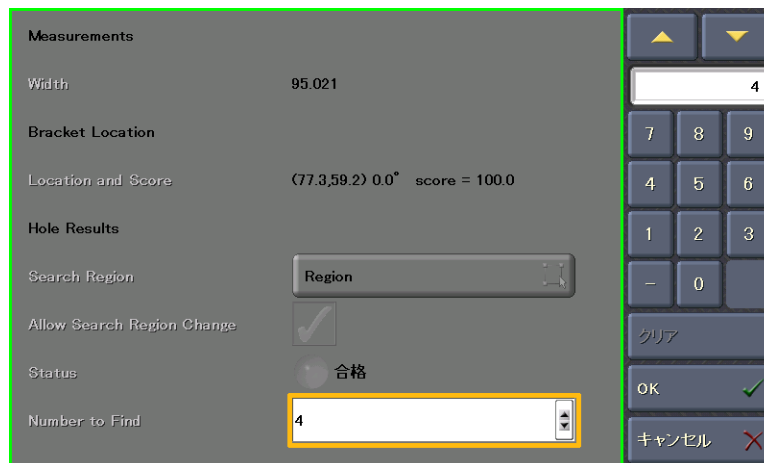


図 4-4: 数値入力モード

サポートしている対話型コントロール

注:

- ・ サポートしているコントロールについての詳細は、In-Sight Explorer ヘルプファイルをご参照ください。
- ・ VisionView は、ColorLabel、StatusLight、および MultiStatus コントロールをサポートしていますが、対話型コントロールではありません。

Button

スプレッドシートのイベントをトリガします。

Checkbox

チェックボックスおよびスプレッドシートセルの状態を切り替えます。

Dialog

ラベル付きダイアログ画面を開きます。カスタムビューおよび EasyView でサポートしているコントロールは、ダイアログでもすべてサポートされています。

EditAnnulus

ドーナツ領域のポジションおよびサイズを調整できる対話型グラフィックスモードにディスプレイが切り替わります。

EditCircle

円のポジションおよびサイズを調整できる対話型グラフィックスモードにディスプレイが切り替わります。

EditCompositeRegion

合成領域を調整できる対話型グラフィックスモードにディスプレイが切り替わります。合成領域は複数のサブ領域から構成され、サブ領域は円環、円、ポリゴンまたは矩形からなります。

注:

VisionView アプリケーションでサポートしているのは、合成領域全体の配置のみです。

EditFloat

数値キーパッドを使用するか、[上へ] または [下へ] ボタンを押すことによって、浮動小数点値を入力できる数値入力モードに切り替わります。

EditInt

数値キーパッドを使用するか、[上へ] または [下へ] ボタンを押すことによって、数値を入力できる数値入力モードに切り替わります。

EditLine

ラインのポジションおよびサイズを調整できる対話型グラフィックスモードにディスプレイが切り替わります。

EditPoint

点のポジションを調整できる対話型グラフィックスモードにディスプレイが切り替わります。

EditPolygon

ポリゴンのポジションおよびサイズを調整できる対話型グラフィックスモードにディスプレイが切り替わります。

注: VisionView アプリケーションでは、ポリゴンの頂点を追加したり、削除したりすることはできません。

EditRegion

領域のポジション、サイズ、回転およびカーブを調整できる対話型グラフィックスモードにディスプレイが切り替わります。

EditString

オペレータに文字列の入力を許可します。

ListBox

オペレータにオプションリストの選択を許可します。選択中のオプションはハイライトされます。

Wizards

ダイアログの集合体へのアクセスを許可します。

シーケンシャルウィザード

[前へ] または [次へ] ボタンをクリックして、順番にダイアログをナビゲートします。シーケンシャルウィザードの最後ダイアログには [終了] ボタンが含まれ、各ダイアログで行った設定変更を受け入れます。

メニューウィザード

メニューからダイアログにアクセスします。各ダイアログにつき 1 つのボタンがメニューに表示されます。メニューのダイアログを選択してから [メニュー] ボタンをクリックすると、メニューウィザード画面に戻ります。

サポートしているフォント

次のフォントサイズがサポートされています。8、10、12、14、16、20、26、32、72、および 144。サポートされていないフォントサイズが使用されている場合、サポートされているフォントサイズに一番近いフォントが使用されます。

VisionView では、次のフォントタイプがサポートされています。サポートされていないフォントタイプが使用されている場合、サポートされているフォントタイプを使用して文字が表示されます。

表 4-5: サポートしているフォントタイプ

	英語	日本語	簡体字 中国語	韓国語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	イタリア語
フォントタイプ	Courier New	MS ゴシック	NSimSun	GulimChe	Courier New	Courier New	Courier New	Courier New
	Tahoma	MS P ゴシック	SimSun	Gulim	Tahoma	Tahoma	Tahoma	Tahoma
	WebDings	WebDings	WebDings	WebDings	WebDings	WebDings	WebDings	WebDings
	WingDings	WingDings	WingDings	WingDings	WingDings	WingDings	WingDings	WingDings

注:

カスタムビューで使用されているフォントタイプは、VisionView で選択されている言語と一致する必要があります。選択されている言語と一致しないフォントがカスタムビューに含まれる場合、文字は四角形で表示されます。

画像に文字列を表示する（In-Sight センサ）

In-Sight Explorer のスプレッドシートビューから、In-Sight の PlotString 関数を使用して、センサの画像に文字列を描画することができます。

例：バーコードまたは 2D シンボルを読み取るアプリケーションを想定しています。

1. PC にログオンします。
2. In-Sight Explorer を起動し、適切なセンサにログオンします。
3. センサに適切なジョブファイルをロードします。
4. スプレッドシートに ReadIDCode 関数を挿入すると、読み取られてデコードされた英数字の文字列が返されます。
5. スプレッドシートに PlotString 関数を挿入し、デコードされた文字列を参照します。[セルのフォーマット] ダイアログを使用して、PlotString セルおよびプロットした文字列のフォント、スタイルおよびサイズをフォーマットします。
6. ジョブを保存し、In-Sight Explorer を終了してから VisionView アプリケーションに戻ると、フォーマットされた文字列が画像の上に表示されます。

一般的な仕様

Cognex VisionView 700 ディスプレイの一般的な仕様を記載します。

表 6-1: VisionView 700 仕様

仕様		VisionView 700
ディスプレイ	サイズ	7 インチ WVGA (アスペクト比 16:9)
	可視領域	152.4 × 91.44mm
	タイプ	TFT LCD
	解像度 (ピクセル)	800 × 480 (384,000 ピクセル)
	色数	262,144 (18 ビット / ピクセル)
	輝度	400 nit
	コントラスト比	最低 40 ° の視野角で、300:1
	バックライト耐久性	50% の輝度に低下するまで 1 万時間 ¹
タッチスクリーン	アナログ抵抗膜方式	4 線式
	耐久性	直径 2 mm のゴム製ポインタを使用し、10 ~ 100 G の力で、100 万タッチ以上
	光透過率	78% 以上
メモリ	システム	64MB Mobile SDRAM
	プログラム	128MB 不揮発性フラッシュメモリ
	ビデオ	16MB ビデオ SDRAM
冷却装置		冷却システムファンレス設計
I/O	ステータス LED	ネットワークまたはセンサトラフィック (左側の LED)、電源 (右側の LED)
	ネットワーク	イーサネットポート × 5、10/100 BaseT、TCP/IP プロトコル、全二重 (広域ネットワークに接続する LAN × 1、In-Sight Micro ビジョンシステムへの PoE 電源供給 ² に対応する、ビジョンセンサ接続専用ポート × 4)
	USB	USB ドライブ ³ に画像を保存 ⁴ するホスト USB 2.0 (480 MB/秒) ポート × 3
入力		24VDC ± 10%、最大 2A (In-Sight Micro ビジョンシステムへの PoE 電源供給をしない場合は最大 1A)。自己復帰型ヒューズ内蔵。
機械的仕様	材質	ABS プラスチック (V0 UL 規格) ハウジング (ポリエチレンタッチスクリーンおよびレキサンシール / ラベル)
	取り付け	パネルマウント。オプションでスタンドアロン設置用アクセサリキット (P/N 820-0005-1R) を用意。
	寸法	170.3 × 205.9 × 52.5mm
	重量	860g

表 6-1: VisionView 700 仕様（続き）

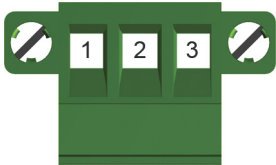
仕様		VisionView 700
環境	温度	0 ～ 45°C（動作）、-30 ～ 80°C（保管）
	湿度	90%、結露しないこと（動作および保管）
	保護	NEMA 4（NEMA 4 準拠の筐体またはパネルに正しく取り付けられた場合）
	衝撃	IEC 68-2-27 準拠、30 G
	振動	IEC 68-2-6 準拠、10 ～ 2000 Hz の範囲で 2 G
規格認証		CE、FCC、TUV SUD NRTL、RoHS

1. バックライトの耐久性は [非アクティブ時へのタイムアウト] の使用により、5 万時間以上に伸びる可能性があります。デフォルトでは、一定の時間内にオペレータによる操作がないとタイムアウトとなり、輝度が 10% 下がってバックライトの寿命を延ばします。
2. VisionView の Vision Sensor ポートは、パワーオーバーイーサネット（PoE）での電源供給を必要とする Cognex 製ビジョンシステムに電源を供給します。これらのポートに Cognex 製以外の機器を接続すると VisionView が故障する恐れがあります。
3. USB ドライブは FAT32 ファイルシステムにフォーマットしてください。
4. VisionView には複数の USB ドライブを接続しないでください。

電源コネクタの仕様

電源コネクタは、電源ケーブルを VisionView に接続するために使用します。

表 6-2: 電源コネクタのピン配列

	
ピン番号	信号名
1	シールド
2	グラウンド、24VDC リターン
3	電源、+24VDC

VisionView 700 寸法図

寸法は mm 単位（[] 内はインチ）で表記されています。

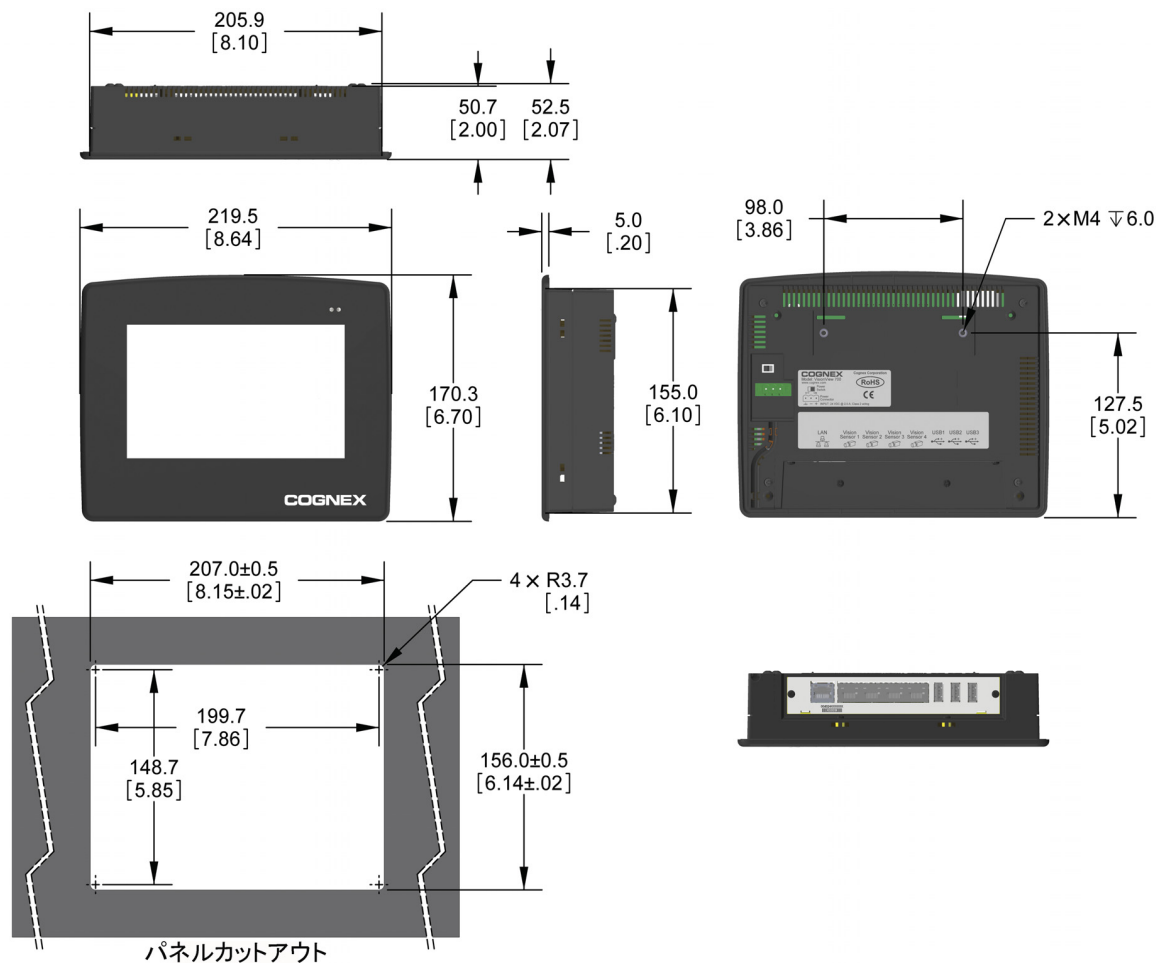


図 6-1: VisionView 700 の寸法およびパネルカットアウト

クリーニング / メンテナンス

マイクロファイバーの清掃用クロスを使用して、VisionView の汚れや指紋を拭き取ります。最初に、エアスプレーまたはやわらかいブラシで大きなほこりを除去してから、クロスで軽く表面を拭いてください。

タッチスクリーンの表面に付いた頑固な汚れは、アルコール（エチル、メチル、イソプロピル）を使用して取り除きます。スクリーンの表面にアルコールを直接かけず、布にアルコールを染み込ませてからご使用ください。上部のフィルムと下部のガラスの間の結合部分にアルコールが染み込むと、剥離や故障の発生する恐れがあります。クロスの清潔で乾いた部分でアルコール分を拭き取ってください。

- ・ 爪などの尖ったものでタッチスクリーンの汚れを落とそうとすると、タッチスクリーンの透明導電膜に亀裂が生じる可能性があります。
- ・ ガラス専用クリーナや、マニキュア除光液（トルエン）、ベンジンまたはその他の有機溶媒やクリーナを使用して、VisionView をクリーニングしないでください。



P/N 597-0108-03JA